

令和元年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和2年2月21日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
<p>個の考えを生かし、主体的な学習を基盤とした対話的な学習を育成する。確かな学力を育成する。</p>	<p>授業で生徒（人間性）を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やればできる喜びが感じられる授業を展開し、主体的な学びの中で深く考える生徒を育てる。 ・楽しく学び合える集団づくりを構築する。 	A	B	<p>・生徒が自主的に楽しく学べるような授業づくりを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習会を開いたり、家庭と連携したりして、個に応じた対応をした。 	B	<p>・生活に心配がある生徒達だが、授業は落ち着いて進められていた。継続してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を実施する授業が多く見られた。 	<p>・教員間での授業参観を行ったり、他校の授業を見に行ったりして、よりよい授業づくりができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習にける時間が少ないので、有効性がわかるように指導する。
	<p>教師支援と家庭学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたきめ細やかな支援を実践する中で、家庭と連携しながら学習習慣の定着を図る。 	B					
<p>生徒主体で、思いやりがあり、活力のある学校・学級づくりに努める。</p>	<p>教育相談活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校ゼロを目ざし、新たな一人を出さないために、学校の体制を確立し、支援の必要な生徒の早期発見、早期対応に努める。 	B	B	<p>・生サポ担当に任せってしまう面があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生サポでは早期発見が遅れることがあった。 ・生活委員と執行部が中心となりあいさつ運動に取り組む、気持ちよい挨拶ができる生徒が増えたが、自分から挨拶ができず、また挨拶をされても返せない生徒もいる。 ・校歌を3番まで歌う機会を多く取り入れたが、最後まで元気よく歌えない。校歌盛り上げ隊を引き継いでいきたいという思いは、生徒も持っている。 ・生徒同士でお互いが認め合える場面を作る。 ・少人数の教科指導は、自己肯定感を向上に有効だった。 	B	<p>・SNSトラブルの問題は、その危険性をイメージできないことも一因である。個人情報が一瞬で世界に伝わってしまい消去できないという恐ろしさも負の部分を生徒に知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが友達と遊ぶことが少なくなった。ケガをしない程度の痛みを知る経験は成長に必要で、スポーツを通じ競技として痛さを知ることは時代に合っている。 ・柔・剣・弓道や相撲の活躍は、よいことである。 	<p>・全学年を対象とする、スマホとSNSの使い方講座を開設する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任が得ている情報を共有するよう、生サポファイルを作り回覧する。 ・生活委員が全校活動でありさつ運動強化を図り、活力ある活動になるように、執行部・特活部・教員で支援する。 ・PS集会で校歌を練習し、自信をもって歌うことで、校歌への愛着を育む。 ・朝の会と帰りの会を活用するとともに、学級開きの序盤から認め合う活動をする。 ・キャリア教育や進路選択を通して、自己決定ができるよう、学校生活の小さなことから自己決定する場面を意図的に設定する。
	<p>挨拶の声や歌声が響く学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりがあり、元気で明るい挨拶ができ、誇りをもって校歌が歌える生徒を育てる。 	C					
	<p>どの子にも居場所と活躍の場のある集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中での居場所づくりに努め、生き生きと活動できる学級活動、生徒会活動を推進する。 ・生徒主体となり、全校で、全力で取り組むことができる行事や部活動の運営に努める。 	B					
<p>生き方教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にできることを考え、なりたい自分の姿を描き、“自分で自分を決定する力”を育む。 	B						
<p>地域と協働し、家庭・地域及び小学校との絆を深める。</p>	<p>家庭連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域教育ボランティアを活用し、地域の教育力を活かした心に残る活動を実践する。 	B	B	<p>・ボランティアの方が来ていただいても、知らないことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方の人数が少なく感じる。 ・職場体験や本陣まつりなどに、学んだことを生かして活動に参加することができた 	A	<p>・ボランティアが高齢化し減少する現実に対応するためには、若い層への広報が重要である。地域回覧やホームページで紹介したい。</p>	<p>・活動日には、教員・生徒に知らせ、挨拶をしっかりすることで感謝を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方の活動を広報し、注目したり感謝したりすることで、参加者の拡大を図る。
	<p>ESD活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に学び、総合的な学習の成果を地域に発信するなど、“自分から行動を起こす力”を育む。 	A					
<p>教育公務員としての自覚を高め、信頼される教師集団を目指す。</p>	<p>教職員の人間力や授業力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育環境を整備する中で、教職員の資質向上を目ざし、こころ豊かな人間力を高める。 ・積極的な授業改善、教材研究に努め、自主研修を積極的に実施し、授業力を高める。 	A	A	<p>・授業研究会や学習部会を開き、定期的に授業や教材について、よりよいものを作る話し合いができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議と現職研修開催日の下校時刻を早めたり、総体終了後活動を中止した部活の顧問を配置転換したりしたが、在校時間の縮減は進んでいない。 	A	<p>・働き方改革には、意識切り替えが必要である。始めに時間ありきで仕事にかかりたい。</p>	<p>・問題解決的な学習に対しては、授業づくりを全職員で研究し、再来年からの新しい学習指導要領全面実施に備える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイムマネジメントの意識化と具体的な行動を促していく。
	<p>働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の効率化など多忙化解消に努める。 ・生徒の対応や校務分掌など互いに助け合い、サポートし合える教職員の仲間づくりを進める。 	B					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】